

第7回みどりの式典

みどりの学術賞

緑化推進運動功労者
内閣総理大臣表彰

を授与



4月26日、東京都千代田区の憲政記念館で天皇陛下御臨席のもと、第7回「みどりの式典」が開催されました。

式典には、安倍内閣総理大臣、林農林水産大臣をはじめ約400名が出席し、「みどりの学術賞」及び「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」の授賞式が行われました。

「みどりの式典」は、「みどりの日」についての国民の関心と理解を一層促進し、「みどり」についての国民の造詣を深めるため内閣府の主催によって「みどりの月間（毎年4月15日から5月14日までの期間）」に開催されており、「みどりの学術賞」の授与と「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」が行われます。

みどりの学術賞受賞者の宮地重遠氏は、受賞者代表挨拶において、「海中に住む藻類などの植物も陸上の植物と同じくらい高い生産性を有しており、周囲を海で囲まれた日本では、こうした藻類の生産性を重視していく必

要があると思う。また、地球上のあらゆる生物の生存を支えている『みどり』は、昆虫などの動物によって授粉し、その個体数を増やしており、植物に限らず動物も含めた生物の多様性を自然の原点として考えながら、豊かな『みどり』を将来に引き継いでいくことが重要な課題」と述べるとともに、研究や活動に対する支持・協力への感謝の意を表しました。



みどりの学術賞

みやち しげとお
宮地 重遠

NPO法人地域振興支援センター クリーンアース環境研究所所長
東京大学名誉教授



植物生理学の分野において、クロレラなどの微細藻類を使って光合成過程で炭水化物を合成する「CO₂固定」の研究を進め、CO₂濃縮は炭酸脱水酵素が行っていること、微細藻類などはCO₂濃度を感知する機構があり、この働きによりCO₂濃縮を調節していることを明らかにしました。

また、これらの成果を基に「海洋バイオテクノロジー」という新しい学術分野を創設し、海洋におけるCO₂固定能力の研究や海洋微生物の蒐集など、斯学の発展に貢献しました。

わたに いづみ
鷲谷 いづみ

東京大学大学院農学生命科学研究科教授



生態学の分野において、絶滅危惧種のサクラソウを使って、生理生態学、昆虫による授粉様式の解析、個体群生態学的手法などを用的科学的知見に基づく野生植物の保全手法を開発しました。

また、侵略的外来種の生態影響、里山や水辺の生物多様性の保全と再生など広範な研究を総合的に展開し、保全生態学として体系化しました。これらの成果を基に、市民との協働による研究及び普及活動を行い、生態系・生物多様性の保全に貢献しました。

国内において植物、森林、緑地、造園、自然保護等に係る研究、技術の開発その他の「みどり」に関する学術上の顕著な功績のあった個人に内閣総理大臣が授与し、その功績を讃えるものです。
第7回の受賞者は、宮地重遠氏と鷲谷いづみ氏の2名で、それぞれの功績は次のとおりです。

緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰

緑化活動の推進、緑化思想の普及啓発に顕著な功績のあった個人、団体を内閣総理大臣が表彰するものです。

平成25年は、13の個人・団体が受賞しました。

個人

森山 衛（茨城県日立市）
遠藤 節子（静岡県三島市）
山口寿美子・入江真喜子・三好美喜子（徳島県美馬市）



団体

北海道札幌南高等学校（北海道札幌市）、能代市中川原地区連合自治会（秋田県能代市）、サンデン株式会社、赤城事業所（群馬県前橋市）、千葉瑞穂みどりの少年団（千葉県千葉市）、大鹿村さくらの会（長野県下伊那郡大鹿村）、刈谷市立小垣江東小学校（愛知県刈谷市）、花ネット丹後（京都府京丹後市）、小豆島町（香川県小豆郡小豆島町）、石鎚水源の森くらぶ（愛媛県西条市）、「耶馬の森林」育成協議会（大分県中津市）

※各賞の詳細な功績等については、以下をご覧ください。

みどりの学術賞

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/hozen/pdf/130308-02.pdf>

緑化推進運動功労者表彰

http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/sanson_ryokka/pdf/130419-02.pdf